



留萌市食農教育推進協議会
会長 佐藤 剛信さん

稲刈り体験学習

市内5小学校の児童が 実りの秋を笑顔で体験

10月初旬を予定(生育状況によります)

今年も小学生が「稲刈り体験」にチャレンジします。

稲刈り体験学習は、児童たちが農業体験を通して農業への関心と理解を深め、楽しさを学ぶことを目的に留萌市食農教育推進協議会の前身である農村青年グループ五志道が平成19年度から始め、22年度から同協議会が引き継いで実施しています。

今年、市内の留萌、東光、港北、潮静、幌糠の5小学校の第5学年の児童(幌糠小学校のみ全児童)が「春の田植え」から「秋の稲刈り」までを各校が午前と午後の2回に分けて行います。

留萌市食農教育推進協議会会長の佐藤剛信さんは、「農業体験学習は、児童たちが慣れない田んぼに足を踏み入れて苗を植え、土の感触を体で感じ、稲の成長を喜び、鎌を使い収穫するという農業の原点を学びます」。参加する児童については「最初は田んぼに入るのをためらっていても、すぐに慣れて泥んこになりながら喜んでいる様子や農業について授業で習ったことを真剣に質問してくる姿など、一緒にいてとても楽しいですね」と笑顔を見せます。「南るもい産ななつぼしは食味も良く、ブランド米に成長しつつあります。そして、児童たちがこの稲刈り体験学習を通じて留萌産米に関心と誇りを持ち、将来の農業への就労や留萌産米のPRの先頭に立ってもらえたら心強く思います」と話しています。

収穫された稲は後日精米し、各校に贈られて家庭科の授業などで利用されます。



▲土の感触を感じながら初めての田植え(今年6月)



▲指導を受けながら慎重に刈り取り(昨年10月)



社会福祉法人 留萌市社会福祉協議会
事務局長 大澤 貞閑さん

障がいのある方もない方も 笑顔が広がる交流の機会に

第32回 留萌市ふれあい広場

9月29日(日) 午前10時〜
留萌市保健福祉センターはーとふる

留萌市ふれあい広場が、9月29日(日)午前10時から留萌市保健福祉センターはーとふる及び駐車場が開かれます。

この事業は、昭和56年に設けられた「国際障害者年」にちなみ、障がいのある方もない方もともに助け合いながら暮らすことが正常な社会であるとする「ノーマライゼーション」の考え方に基づき、同年より開催しています。

留萌市ふれあい広場を主催する留萌市社会福祉協議会事務局長の大澤貞閑さんは、「今年で32回目を数える留萌市ふれあい広場は、最初は3団体の参加で旧金市館4階催事場を会場に始まりました。

その後、総合福祉センター2階ホールへ会場を移し、平成12年からははーとふるを会場としています。

現在では、障がい者福祉施設やボランティア団体など16団体が参加し、写真や書道の展示、フリーマーケット、農水産物の販売などにぎやかなイベントになり、この日を楽しみにしている方も多そうです。

さらに「留萌市ふれあい広場は、ハンディキャップのある方と交流する機会であると同時に、ノーマライゼーションへの理解を深めてもらう良い機会だと考えています。

当日は、ドラマサークル演奏会やスマイル劇団るもいによる演劇、スタンプリリー抽選会などたくさんイベントがあります。」と話しています。

ぜひ、この機会に足を運んでみませんか。
留萌市社会福祉協議会 ☎42・55330



▲その場にいる全員が演奏者になるドラムサークル演奏会



▲大勢の市民でにぎわう屋外物品販売コーナー